

晴田の息吹 vol. 2



平成27年 7月16日 No. 9 校長 池上

1学期を振り返って

台風接近に悩まされての学期末となりました。ここ数日は、集団下校を中止したり終業式を早めたりし、急に時間割を変更しながらも、子どもたちが落ち着いた気持ちで1学期を終えることができるように配慮しながらの毎日でした。

さて、この1学期間、毎月の全校集会では、子どもたちの心が豊かになってくれることを願いながら講話を続けてきました。「①ありがたい言葉が飛びかう学校にしよう。②心はだれにでも見えないけれど 心づかいは見える。③相手を自分と同じくらい大切に思っていこう。」などです。

7月1日には、上述の③について話したのですが、内容は「猿が何気なく小石を投げて遊んでいたのですが、その小石がカニにあたりそうになりました。カニさんは怒って、私にとっては命にかかわることなんですと叫びました。」というものです。『このようにみなさんは、何気なく人を傷つけていることはありませんか。私たちは毎日の生活で、このような猿になったりカニになったりしているのかもしれないね。だから、友だちを自分と同じように大切に思えるようになり、優しさや思いやりの心を育てていこうね』という言葉で締めくくりました。すると、数日後に1年生の男の子が私のところにやってきて、「校長先生、この前の話と同じ本を図書室から借りてきたよ。」と声をかけてくれました。嬉しかったですね。1年生も私が話した言葉を記憶にとどめておいてくれたようです。

学校生活を送る上において時としては、子どもたち同士気持ちがいずれ違ったり衝突したりし、トラブルを引き起こすことがあります。でも、この優しさ、思いやりの心が育っていれば、きちんと自分たちの力で解決してくれると思います。

1学期を振り返れば、このような心が育っているとは言い難い場面もいくつか見かけられました。これからも繰り返し指導してまいります。



晴田っ子に、嬉しい言葉をいただいています

学校には先月、今月と、地域の方から嬉しい言葉（電話）をいただきました。元気な晴田っ子、笑顔が素敵な晴田っ子。子どもたちは、学校の外でも心和む姿を見せてくれるようです。学期の最後になりましたがご紹介いたします。

《6月8日》

「小城のダイレックスでのことです。店の外で高齢の方が誤って、財布の中の小銭をばらまくように落とされました。ちょうどそこに居合わせた中学年くらいの女の子達が、そのお金を丁寧に拾ってあげて、高齢の方に渡してくれていました。明るくてとても優しく接してくれていたのも、その姿を見ていてとても嬉しくなり、お電話を差し上げました。」

《7月9日の電話》

「火曜日（7日）の午後4時頃です。国道（203号線）を車で通っていましたが、横断歩道を渡ろうとしていた小学生がいたので、手前で停車しました。すると、低学年の男の子、高学年の女の子が、横断歩道を渡りきったところで車道の方に振り向き、揃って丁寧に辞儀をしてくれました。ほほえましくもあり、気持ちがよかったですので電話しました。」

（このことを子どもたちに伝えたら、僕も私もと、結構たくさん子どもたちが、このようなお辞儀をしてると言っています。）

